



| | |
|---------------|------------------|
| 発表資料 | |
| 平成27年10月9日(金) | |
| 担当課 (担当者) | 危機管理課 (濱田 龍成) |
| 電話(内線) | 20-3118 内 2102 |

平成27年度鳥取市津波防災訓練の実施について

この訓練は、内閣府が、市町村と連携し、「津波防災の日(11月5日)」を中心に実施している中国エリアの地震・津波防災訓練です。

今回の津波防災訓練では鳥取市賀露地区において、「震度7の地震と10mの津波が発生する」との災害の発生を想定し、『自助』・『共助』の避難対策となる各町内会による適切な避難経路の選定等を通じて、地域住民の防災意識の高揚と適切な避難経路選定の知識の修得を図り、万一の津波災害時の被害軽減を図ることを目的とします。

記

1 日時

平成27年11月1日(日) 午前10時～正午

2 場所

鳥取市賀露地区

3 主催

内閣府、鳥取市

4 訓練想定

平成27年11月1日(日) 午前10時00分、鳥取東部沖で大規模な地震が発生し、市内は震度7の揺れに見舞われ、大津波警報が発表され15分後には、10m規模の津波到達が予想されている。

5 参加予定団体等

鳥取海上保安署、湖山消防署、鳥取市消防団賀露分団、鳥取県漁業協同組合、とっとり賀露かっこ館、地場産プラザわったいな、海鮮市場かろいち、賀露地区自主防災会連絡協議会、賀露町町内会 計約500人

6 訓練内容

- ①防災行政無線による「緊急地震速報」・「大津波警報」の緊急放送(賀露地区のみの放送)
- ②「緊急地震速報」直後のシェイクアウト訓練
- ③消防署・消防団による避難広報
- ④オレンジフラッグ(津波避難視覚信号)の掲出(鳥取海上保安署)
- ⑤消防団等と連携した避難誘導訓練(避難経路、一時避難場所の確認)
※一時避難場所:「賀露公園」「明神広場」等、各町内会ごとに選定した場所
- ⑥住民の避難訓練、住民による安否確認訓練

7 その他

内閣府の協力により、地域住民がワークショップを重ねて作成した避難計画を訓練により検証します。
(別添資料参照)

賀露地区地震・津波防災訓練 全体スケジュール

7月4日：19：30～
第1回 訓練準備会議
(コア会議)

訓練の目的・内容を理解する。訓練に向けて今後のスケジュールを確認。東日本大震災、阪神淡路大震災の映像等による学習。訓練用に想定する地震発生と津波による浸水被害の設定。

8月5日：19：30～
第2回 訓練準備会議
(ワークショップ①)

震度7の地震発生にともなう10mの津波が発生したことを想定し、安全な避難場所、避難経路を地区ごとに検討。

9月2日：14：00～
第3回 訓練準備会議
(ワークショップ②)

タウンウォッチングによる危険箇所等の確認。避難経路確認のノウハウ、方法を学習する。4区～6区の3コースで実施。

10月6日：19：30～
第4回 訓練準備会議
(ワークショップ③)

「Myまっぷらん」の活用方法を知り、「Myまっぷらん」に自宅から避難場所への経路などを記入する。11月1日の訓練内容を共有し、最終調整を行う。

現時点

11月1日：10：00～
賀露地区地震・
津波防災訓練
(実動訓練)

【住民】(シェイクアウト訓練、津波避難訓練、安否確認訓練)
【海上保安署】(オレンジフラッグ掲出)
【消防署・消防団】(訓練広報、避難誘導)

11月●日
訓練の振り返りと検証
(コア会議)

訓練の振り返りと検証。訓練による成果と課題の共有。継続的な活動方針、自助、共助、公助のあり方などを検討する。

【オレンジフラッグ】

東日本大震災時、海では陸地からの放送が聞き取れなかったとの教訓から、太平洋側の一部の自治体では、津波警報・注意報が発表された際にオレンジフラッグを掲出して、避難を促す取組みを推進している。平成26年度時点では日本海側の自治体での取組みはなかったとのこと。



訓練内容

シェイクアウト訓練

訓練開始合図(防災行政無線等)で、自らの身を守る安全確保行動1-2-3を1分から数分間実施



津波避難訓練

防災行政無線による情報伝達訓練等を活用し、最寄りの避難場所等へ避難

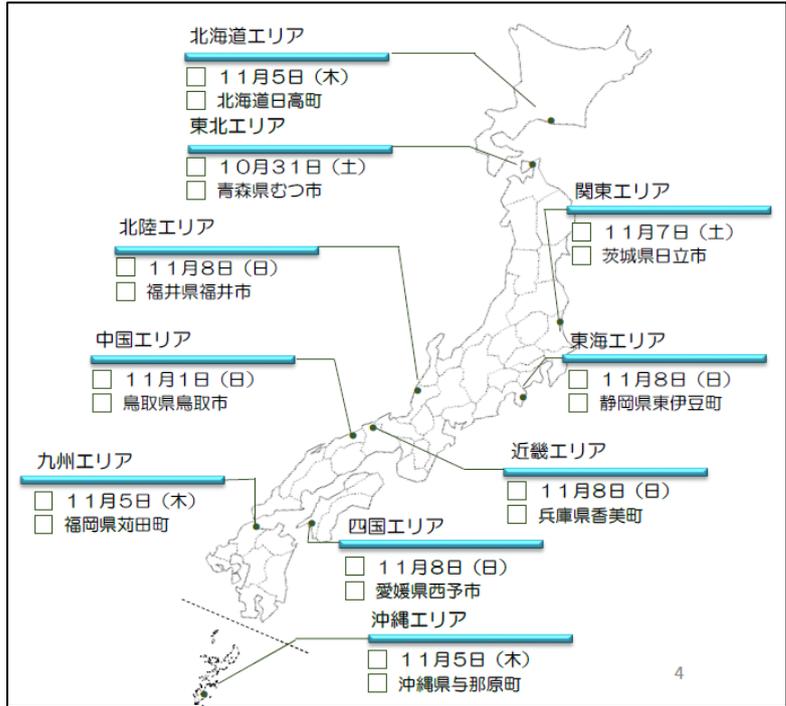


その他

情報伝達訓練、物資配給訓練、炊き出し訓練等(※地域により異なる)

内閣府が主催する地震・津波防災訓練

この訓練は、平成26年度より行われており、26年度は全国で8カ所（北海道浜中市、宮城県多賀城市、千葉県いすみ市、愛知県西尾市、和歌山県広川町、山口県周防大島町、高知県大月町、宮崎県日南市）、27年度は右の図のとおり全国10カ所で訓練が行われます。（各都道府県で1市町村が基準となっており平成27年度は本市が希望）



本訓練の津波被害想定の方

【鳥取県の津波被害想定】

鳥取県では、避難を中心とした対策を行うための暫定的な予測として、平成23年度に鳥取沖東部断層、鳥取沖西部断層、佐渡島北方沖の3つの波源に基づく津波浸水予測図を公表しています。

県の想定によると、鳥取市では、最も高い津波の高さが6.27mで、津波の到達時間が5分、最大波の到達時間が14分と予測されています。

【本訓練における津波被害の想定】

東日本大震災の地震・津波の規模は、『想定外』とも言われています。

本訓練では、訓練地区住民と訓練内容を協議し、想定外もないわけではないとして、「鳥取沖で阪神淡路大震災級の地震が発生し、震度7の揺れに見舞われ、15分後に高さ10mの津波が到達した。」として、勉強会・訓練を行います。

